

クリ「ぼろたん」は前年結果した太い枝を中心に残しせん定すると収量が安定する

クリ「ぼろたん」は現地への導入が進んでいますが、栽培方法に不明な点が多く、安定栽培技術の確立が求められています。そこで、枝の種類・長さ・太さと、枝当たりの雌花数・着穂数・収量の関係を明らかにして、せん定する時に残す枝の指標をつくりました。

枝の種類と太さが重要

- ① 枝の種類には発育枝（前年に伸びて穂が着かなかった枝）と前年結果枝（前年に穂が着いた枝）があります。
- ② 枝の太さは、基から5 cm付近の基部径及び枝の先端から3芽と4芽の間の先端部径を指標とします。
- ③ せん定する時には、枝の種類と枝の太さを見て行うことが重要です。

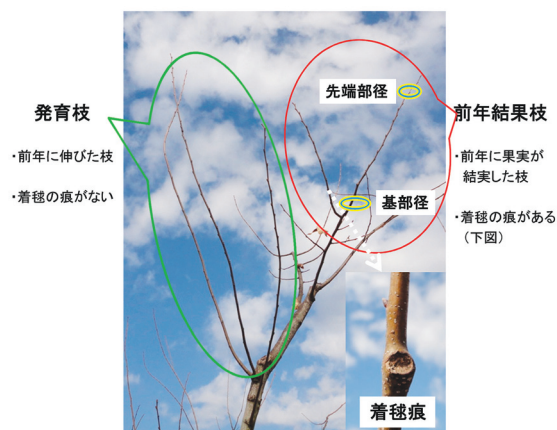


図1 枝の分類

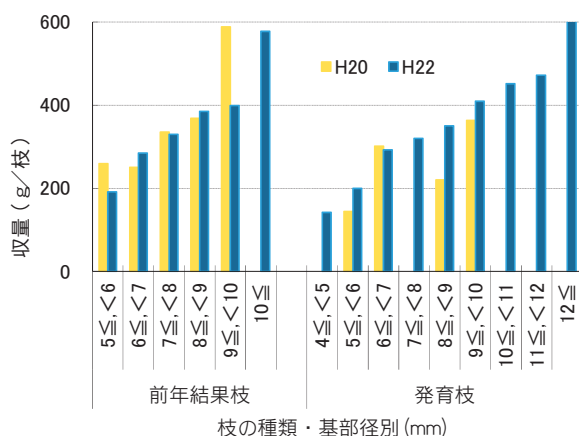


図2 枝の種類及び基部径別の1枝当たり収量

太い枝を残す

- ① 1枝当たりの雌花数及び収量は、枝の長さより太さとの関係が深く、特に基部径が7 mm、先端部径が4 mmより太いと雌花数及び収量が多くなり、安定栽培が可能です。
- ② 基部径7 mmは概ね鉛筆の太さです。枝の平均的な長さは50~100cm程度ですが、基から先まで太いしっかりした枝を残します。

前年結果枝を中心に残す

- ① 前年結果枝は発育枝より雌花数が多く、着穂率（収穫時まで残る穂の割合）が高いので、安定栽培に適しています。
- ② 前年結果枝を中心に残します。翌年の結果枝を確保するため、樹全体では前年結果枝70%、発育枝30%を目標に配置します。

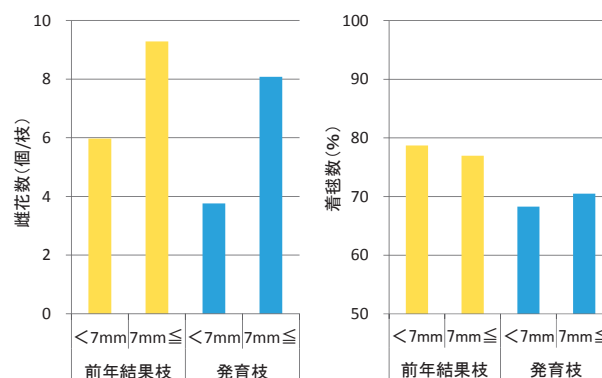


図3 枝の種類と基部径別の雌花数・着穂率